

光明

こうみょう

夏

第227号

特集1

大切な人を
亡くしたあなたへ

特集2

盆踊り

齋藤孝の学ぶ楽しみ

必見！長谷寺の寺宝

しん こん しゅう ぶ ざん は
真言宗豊山派

光明

目次 夏
第227号

03 | 特集1
大切な人を亡くしたあなたへ

11 | 『般若心経』やわらか手引き
まかはんじゃ〜⑦

13 | 弘法大師に学ぶ③

15 | 齋藤孝の
学ぶ楽しみ 心穏やかに生きる②

17 | 特集2
盆踊り

21 | 宗派トピックス
東日本大震災物故者十三回忌追悼法要

23 | 仏教はじめてヒストリー⑫

25 | 仏教童話⑬⑧
象とのら犬

33 | 必見！長谷寺の寺宝②

35 | ヘルシーうれしい 精進料理⑳

37 | 作品募集 仏さまを描いてみよう！

40 | こうみょうパズル

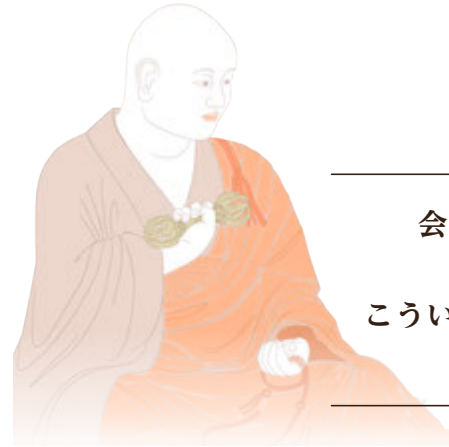


今年は弘法大師御生誕1250年です

弘法大師に学ぶ

【相談】

会社の同僚が上司に評価され、
面白くありません。
こういった心持ちをどのようにしたら
よいでしょうか。



【回答者】堀内規之

大正大学大学院仏教学研究科長・教授
博士（仏教学）／群馬 延命密院 住職

「日本のお母さん」といわれ、国民栄誉賞を授与された森光子さんの詠んだ有名な川柳があります。脇役専門の女優としてしか評価されていなかった時代、その思いを詠んだ川柳といわれています。「あいつより 上手いはずだが なぜ売れぬ」。日本を代表する大女優も人をうらやんでいた時期があったのです。そもそも人はなぜ嫉妬してしまふのでしょうか。できればこのような感情は抱かずに生きていものです。

「嫉妬の心は彼我より生ず。もし彼我を忘れるは、即ち一如を見る。一如を見れば、即ち平等を得。平等を得れば、即ち嫉妬を離る。」弘法大師は、嫉妬の心は彼と我が対立

することから生ずるといっています。ここでいう対立は、比較という言葉に置き換えてもよいと思います。他者と比較して、他者のもの差して自分を見てしまふ。そこから嫉妬はうまれてしまふと。しかし、その比較をやめてしまえば、自分自身のもの差してみることができ、そこには彼も自分も同じ真理の上にいることがわかるという。それはあたかも、まいた種が芽をだす時期はすべて違い、花も咲く時期が違うけれども、芽をだす、花が咲くということからすれば全て平等であるといわれています。

平等であるということが理解できれば、嫉妬は起こらない、そう弘法大師は示されています。さらに、

ち善であるといわれています。

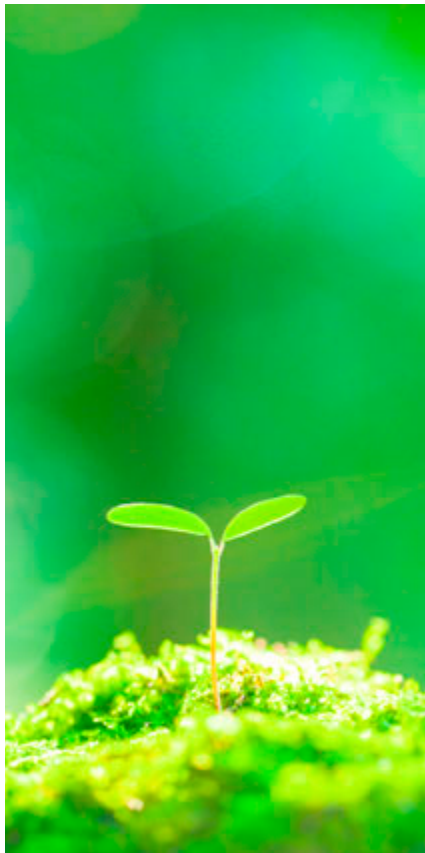
ここで、植木等さんのスーダラ節の一節ではないですが、「わかつちやいるけど」と皆さん思われるでしょう。この善を行っていく重要性を説いた七仏通戒偈に「諸悪莫作 衆善奉行」という言葉があります。もろもろの悪をなさず、善を行っていく、これが仏教の大きな柱だといえます。しかし、この

ことは三歳の子どもも知っているが、八十歳の人でも実践が難しいという白居易の逸話があります。この逸話が示すように、嫉妬の心をなくすことは難しいですが、自らのもの差して謙虚に、感謝の念を少しずつでも持ち続けていくことが、穏やで豊かな時間を過ごす秘訣なのかもしれません。

「嫉妬を離るれば、即ち一切衆生の善を随喜す。随喜すれば、すなわち一切の法を謗せず。謗せざれば、即ち信受す。信受すれば、すなわち奉行す。」

すなわち、嫉妬がおこらなければ、人の善を喜ぶことができる。喜ぶことができるならば、さまざまなものに対して謗することはしない。謗らなければ、すべてを信じ受け入れることができる。そのようなすべてを受け入れるような謙虚さをもって歩んでいけば、そこに善が生ずるといふ。逆説的にいえば、弘法大師は謙虚に生きていくことよって、嫉妬心はなくなるというわれているのです。

自分のもの差しによって、他者への感謝の心をもつ、そのことが人を妬む心をなくす方法、すなわ



東日本大震災物故者 十三回忌追悼法要



平成23年3月11日。東北は2月並みの寒さでした。それから12年が経過した本年、穏やかな春の日差しに包まれた福島県相馬市。

被災地の景色は少しづつ変わってきました。震災の爪痕は少なくなり、人々にも笑顔が戻っています。しかし、大切な人を失った悲しみが消えることはありません。

物故者の十三回忌にあたる本年3月1日、福島県第二号宗務支所相馬妙見歓喜寺(福島県相馬市)の

境内に建立された慈眼院で、東日本大震災十三回忌追悼法要が営まれました。

本尊千手観音さまの御前にて、真言宗豊山派管長浅井侃雄猥下を大導師に、福島県浜通りの寺院住職を職衆として、物故者へ慰霊の祈りがささげられます。

法要の後、浅井侃雄猥下よりご垂示を賜りました。震災により尊

い命を亡くされた方への追悼とともに、復興に尽力された多くの人への労い、そして今も避難を余儀なくされている被災者への温かいお気持ちが届められたお言葉でした。

ついで、真言宗豊山派鈴木常英宗務総長より被災者に寄り添う挨拶、総本山長谷寺川俣海淳寺務長から復興への激励の言葉が述べら

れました。

復興はまだまだ果たされていないと、多くの被災者が口を揃えまします。私たち真言宗豊山派は、これからも変わらず被災地への祈りを続けます。

震災により失われた尊い命の菩提を至心に弔い、遺族を含めすべての被災者に謹んで哀悼の意を表します。





「御影」——真如——

そのお姿にこめられた意味とは？

仏さまやお祖師さまを描いた
絵画や、お姿を彫った像を御影
といいます。お大師さまの御影
を仰ぎ、報恩と感謝の真心をこ
めて供養するのが御影供です。
延喜10年(910)3月21日、大
師の尊像を前に、東寺の灌頂院
で法要が行われました。それが
御影供のはじまりです。

お大師さまの御影は、右手で、
智慧を象徴する五股杵という仏
具を握ります。ちょうど胸の前
に五股杵があるのは、誰の心の
うちにも仏の智慧が具わってい
ることを表しているのです。

左手は、慈悲を象徴する念珠
を持ちます。その姿は、すべての
人の幸福を祈って、それを實際

の行動に移すことの大切さを表
しているのです。

こうした御影を最初に描いた
のは、真如(799~865)で
した。真如は、平城天皇の皇子
で、弘法大師の十大弟子のひと
りです。真如による御影は、後
世、最も流布したことから、根本
御影と称されます。

室町時代や江戸時代になると、
大師の御影には、「日日影向文」
と呼ばれる画賛(絵の余白に書く
文)が添えられました。意味は次
のとおりです。

「入定した
大師は、体を
高野山に置
きながら、心
は兜率天の

仏さまには、それぞれ縁日があ
ります。ご利益がとりわけ顕著
な日とされ、8日のお薬師さま、
18日の観音さま、24日のお地藏
さま、28日のお不動さまが有名
です。
お祖師さまにも縁日はありま
す。真言宗を開いたお大師さま
の縁日は21日です。この日、京都
の東寺には弘法市が立ち、多く
の露店が軒を連ねます。真言宗
の寺院では、御影供と呼ばれる
法要も行われます。

弘法大師空海は、承和2年
(835)3月21日に、高野山で
入定しました。お大師さまの
縁日が21日なのは、入定の日に
由来するのです。

弥勒菩薩のもとにあり、衆生を
救うため、日々この世に現れて、
ゆかりの深い地を訪れている」
お大師さまは、常に自らの智
慧を磨き、それを活かして人々
の救済に励みました。生涯に
渡って貫いたその気高い精神か
ら生まれたのが、御影のお姿に
こめられた特別の意味であり、
御影に添えられることとなった
日日影向文なのです。

